学校番号	3016

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	日本史Ａ（山川出版社）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

⑴ 同じ２年生で学習する世界史（近現代中心）の内容を踏まえ、国際環境と日本史を関連づけて考察すること。
⑵ 重要史料の解読を通じて日本史に対する認識や知識を深めてみよう。
⑶ 教科書・副教材に掲載されている豊富な写真などの図版を積極的に活用しよう。特に文化財関係の写真を通じて日本の文化と伝統を学び、文化財保護の重要性を認識すること。

2　学習の到達目標

近現代を中心とする日本史の展開を、世界史的視野に立って考察し、歴史的思考力を培い、民主的で平和的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と、国際社会に主体的に対応していくことのできる資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見いだし，世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し，その知識を身に付けている。
評価方法	①レポート提出 ②授業観察 （授業への積極的参加、発問への回答等）	①定期考査 （前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計４回実施） ②レポート提出 （ワークシート、長期休暇宿題レポート等）	①定期考査 （前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計４回実施） ②授業観察 （授業内での積極的な史料活用、発問への回答等）	①定期考査 （前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計４回実施） ②授業観察 （授業への積極的参加、発問への回答等）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	序章 近世社会の動揺と近代への胎動	開国以前の江戸時代後半の動向を理解する。	○				a：江戸時代後期の国内動揺と世界の変容の過程に対する関心と課題意識を高め，多様な学習方法を通じて意欲的に追究している。	前期第二中間考査、前期末考査の２回の考査。
	第1章 開国と明治維新	①開国から江戸幕府の滅亡に至る過程を国際環境と関連させて考察・理解する。 ②明治政府が、欧米列強と対等の地位を獲得するために諸制度の改革を推進して、近代化を図った経緯を理解する。			○	○	c：開国以後，明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用している。 d：明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程についての基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	
	第2章 立憲国家の成立	①専制政治を強める明治政府に対抗して自由民権運動が高揚したこと、政府が憲法や議会制度を整備する経緯を考察・理解する。 ②明治政府が進めた条約改正、さらに日清・日露戦争・韓国併合などを国際的な視野に立って考察・理解する。 ③産業革命を通じて日本の近代産業・資本主義が確立したこと、様々な問題が発生したことを理解する。 ④明治時代、伝統文化の上に欧米文化を取り入れた近代文化が成立したことを具体例について考え、理解する。		○		○	b：我が国の対外政策の推移と近代産業の成立から課題を見いだし，条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係の変化及び産業革命の進行と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。 d：我が国の対外政策の推移と近代産業の成立についての基本的な事柄を条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係と関連付けて理解し，その知識を身に付けている。	授業観察。 レポート提出。

後期	第3章 第一次世界大戦と日本	①第一次世界大戦が日本にどのような影響を与え、日本がどのように対応したかを考察する。 ②この時期に、政党政治・デモクラシーの風潮が高揚したことを、具体例を考え、理解する。 ③大正時代、大衆文化が発展したことを理解する。	○	○			a：政党政治の推移と大衆文化の形成に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。 b：近代産業の発展とそれが国民生活にもたらした影響から課題を見いだし，都市や村落の生活の変化と社会問題の発生と関連付けて多面的・多角的に考察している。	後期中間考査、学年末考査の２回の考査。
	第4章 昭和の恐慌と満州事変	大戦後の恐慌、関東大震災、金融恐慌、世界恐慌などの経済の動向、国際関係の変化、軍部の台頭による政治状況の変化について考察する。				○	d：日本の立場と国際関係などを関連付けて、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化についての基本的な事柄理解し，その知識を身に付けている。	授業観察。
	第5章 第二次世界大戦と日本	満州事変から太平洋戦争に至る経過、戦争が日本国民のほか諸国の人々に多大な損害を与えたことを理解する。	○				a：二・二六事件や日中戦争などの内外情勢の変化に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。	
	第6章 占領下の日本	終戦後の占領下の民主化政策、サンフランシスコ平和条約の締結と独立などの日本の戦後復興の経過を理解する。				○	d：占領政策と諸改革，平和条約と独立などの基本的事柄を当時の国際関係の推移と関連付けて総合的に理解し，その知識を身に付けている。	
	第7章 経済繁栄と保守長期政権	国際社会への復帰、経済復興と高度経済成長について現代の事象と関連付けながら、考察する。			○		c：戦後の経済復興，技術革新と高度成長など日本経済の発展と国民生活の向上に関するグラフなどの諸資料から考察した過程や結果を適切に表現している。	レポート提出。
	第8章 現代の世界と日本	冷戦終結・平成不況など、世界の動向と関連づけてこれからの日本のあり方を考える。		○			b：我が国の国際貢献の拡大などと関連付けて，日本の課題及び役割を認識するとともに社会の変化を踏まえ公正に判断している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。